



TRICK STAR



FIM Asia Road Racing Championship 2015

ROUND5 LOSAIL Int.Circuit , QATAR

参戦報告書

■エントリー名	:	TRICK STAR Racing
■監督	:	鶴田 竜二
■ライダー/ゼッケン	:	山本剛大 (# 1 1) 兵藤龍之介 (# 1 2)
■開催日/サーキット	:	2015年10月2日(金)~10月3日(土) LOSAIL Int Circuit (DOHA QATAR)
■マシン	:	カワサキ Ninja250
■結果	:	山本剛大 レース1 優勝 レース2 優勝 兵藤龍之介 DO NOT START

2015アジアロードレースチャンピオンシップ(ARRC)、中東のカタールはドーハ ロサイルインターナショナルサーキットで第5戦を迎える。ここドーハでは日中の気温が40℃をかるく越える為、レースは夜間に行われる。TRICK STAR Racing のライダー・スタッフは初めて訪れるサーキットで、環境に慣れることから始め、レースに集中していく。



【10月2日(金) 公式予選 】

Qualify 14:15~14:45

天候:晴れ コース:ドライ

#11 山本剛大 2'23"645 ポールポジション

チーム計測では気温42℃ 路面温度60℃ そしてメインストレート向かい風の中、公式予選が始まる。昨日まではストレートを追い風が吹いていてストレートスピードの変化やファイナルギアレシオのセッティングが気になるが、計測1周目から2分24秒365の好タイムを記録しタイムモニタートップに表示される。そして2周目に2分23秒645を記録しライバルとの差をさらに広げピットインする。マシンの状態をコメントしマシンセッティングをアジャストして待機。余りにも暑くヘルメットの中に入ってくる熱風で目が痛く開けてられないとのコメントも。アジャストしたセッティングを確認するためピットアウトし2周走行後ピットインして公式予選を終了する。

#12 兵藤龍之介 Do Not Start

昨日の公式練習3回目で他車との接触により転倒してしまう。そして左鎖骨骨折の怪我を負ってしまい、走行を断念。次回第6戦タイランド最終戦までに、しっかり怪我を治して挑みます。



TRICK STAR

【10月2日(金) 決勝レース1 】

Final 1 19:00～ 9LAP

天候:晴れ

コース:ドライ

気温:34℃

路面温度:40.5℃

山本剛大 ポールポジションからのスタート。

#11 山本剛大

スタートを上手く決め、1コーナーをホールショットで進入し1周目終了時点でトップでストレートを通り過ぎる。後続との差は+0.2秒。6台ほどのトップグループになりグループを引っ張って行く。2周目10コーナー進入でリアタイヤがオイル処理を施された箇所を通り砂煙が上がりマシンの挙動が少し乱れ2番手に下がるが直ぐにトップを奪い返す。周りのライバルの動きを見る為に3周目終了時点ゴールラインの通過順位は5番手まで下がる。4周目の最終コーナーからゴールラインまでに前車を抜きトップに。6周目には14コーナー立ち上がりで他車との接触を避けるためコースアウトしてしまうが、直ぐにコース復帰する。7周目に14コーナーで抜かれるがストレートで抜き返す。8周目の最終コーナーで少しインを開けて進入すると後続が先行するがストレートで抜き返す。9周目ラストラップの最終コーナーも1台が先行するが、最終コーナーからチェッカーフラッグが振られるゴールラインまで距離があり、焦る事なく抜き返しトップでチェッカーを受ける。

【10月3日(土) 決勝レース2 】

Final 2 21:30～ 9LAP

天候:晴れ

コース:ドライ

気温:34℃

路面温度:37.0℃

#11 山本剛大

決勝前に行われたウォームアップ走行でヒート1とは異なるセッティングを確認するが芳しくなく元に戻す。

スタートを上手く決め1コーナーホールショットで通過し1周目終了時点もトップで通過する。コースの特性上、スリップストリームを使い後続車もタイムアップ出来るので引き離すのが難しくライバル達が続く。2周目4コーナーでライバルが無理にインに飛び込んでくるので前に行かせ様子を見る。3周目に入るストレートでトップに立つが1コーナー進入時は2番手。一時6番手まで下がるが最終コーナーからゴールラインまでにトップに立つ。毎周ポジションを入れ替えライバル達の動きを観察する。最終ラップに入り1コーナーを6番手で通過するが、最終コーナーまでには2番手にポジションアップしておき、最終コーナー立ち上がりは1台に先行させ3番手で立ち上がる。理想的なポジションで最終コーナーを立ち上がり、コントロールラインまでに2台を抜き去りトップでゴールする。トップから11番手まで1.2秒差での混戦を制した。

【ライダー 山本剛大選手 コメント】**予選 1位**

フリープラクティスからとても調子が良く、単独の走行でハイアベレージで走行できていたので、特にスリップストリームを利用しようとせずにタイヤを温存する為に2周のみのタイムアタックをしました。ですが、走行した場所に恵まれスリップストリームを使う事ができ、目標の23秒台を出すことに成功しタイムアタックを終了。そのままタイムを抜かれる事なくポールポジションを獲得できました。

Race1 優勝

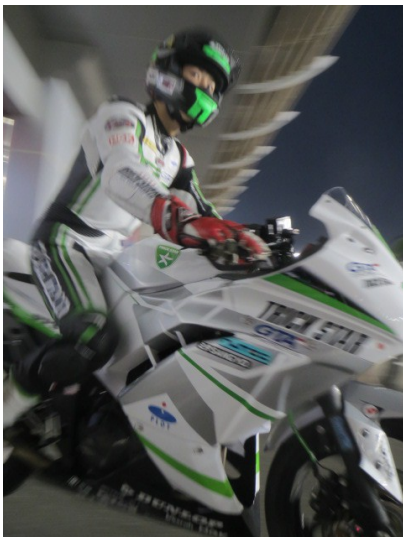
今期2回目のポールポジションからスタートし、前半から積極的に攻めていき集団を引き離そうとしましたが、常にスリップストリームが使えるコースレイアウトで振り切ることが出来ず6台のトップ集団になりました。1回後ろに下がり、もう一度アタックを仕掛け最終的にはグループ4台に絞ることができ戦い易い状況になりました。最終ラップ、ライバルの選手が無理にインに飛び込んでトラブルになることを想定し、最終コーナーをワザと突っ込み過ぎてインを開けライバルを前に行かせて、立ち上がりからゴールラインまでに抜き返しトップでチェッカーを受け優勝する事が出来ました。

Race2 優勝

レース1同様にスタート直後からペースを上げて集団を引き離そうとしましたが、レース2では早い段階からライバルとのバトルになりペースは上がりず、全く予想していなかった11台での大トップ集団になりました。今までに無いまるでアンダーボーンクラスのようなレースでとても難しいレースでした。常にインに飛び込んで行き場を奪おうとするライバル。全く動きが読めないライバルも沢山いたので、かなり警戒しながらのレースでした。最終ラップにライバルに押し出されたりすればそこで終わってしまうので、ストレートをわざとゆっくり走行しライバルと共に集団に埋もれる選択をしました。最終ラップの1コーナーでは6番手か7番手まで順位を下げ、そこからコーナーで前に仕掛けて行くことでライバルに仕掛けられないような状況をつくりつつ順位上げていきました。最終ラップは今までにないくらい攻めに攻め。最終コーナー手前ではトップに立ちました。そこからはレース1同様にインに飛び込んでこれら転倒やコース外に押し出されてしまわないよう、わざと突っ込みすぎてインを開けライバルを先行させて、ストレートで抜き返しゴールラインではトップでチェッカーを受け優勝することが出来ました。

今回のレースウィークは今までにないくらい乗れていました。自分の走りにとても集中できていたし、とても良いレースウィークになりました。レース2では今までにないレースの中で冷静に走り勝利を掴むことが出来て今年1年で一番良い戦いが出来たと思います。ランキングも最終戦を残し2位との差は25ポイントを開ける事が出来ました。あとはこのポイント差に油断せず一番の目標であるチャンピオン獲得を目指すのみです。

日頃から素晴らしいサポート、熱い応援をしていただきありがとうございます。最終戦でチャンピオンを獲得し、結果でお返しできるように頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いします。



【ライダー 兵藤龍之介選手 コメント】

今回は走行初日のプラクティス1・2を走り、色々と直すところが分かりそれを試そうとしたプラクティス3で、前の車両と接触し転倒してしまい怪我をしてレースに出ることができませんでした。山本先輩のレースを見るだけとなってしまうましたが、とても良い勉強になりました。決勝では最終ラップの最終コーナーで、なぜあんなに突っ込むのか聞いてみると、ゴールラインまで距離があるのでワザと最終コーナーで相手に前に行かせスリップストリームに着き、最後に前に出てゴールすると云う自分では考えられないような作戦で見事2連勝しました。他にも相手を抜くタイミングやスリップストリームから出るタイミングなどレースを見て学びました。レースを見て学ぶことは沢山あったけど、このレースに自分は出られなくてとても悔しかったです。この悔しさをバネにし、早く怪我を治し最終戦タイのレースでは、前よりも練習量を増やし自分の悪いところを直し、とても激しい戦いになると思いますが、必ず表彰台に上げられるように頑張ります。最後に応援してくれたファンの方、チームの方、スポンサー様、本当にありがとうございました。



【監督 鶴田 竜二 コメント】

初めてのカタールでのナイトレースに参戦し、とても新鮮な感覚でした。サーキットの外も平地で、ほぼ何もない環境でサーキットだけが浮き上がった感じになりとても幻想的でした。そんな状況なので、ある意味とてもレースに集中出来ました。初めて走るサーキットにも関わらず、いつも通り山本剛大選手は好調で常にトップタイムを出していました。予選も後続を引き離しポールポジションを獲得でき、良い流れでした。

一方の兵藤龍之介選手は初日の最後のプラクティス3で転倒し怪我を負ってしまい出場する事が出来なくなってしまいました。前回のタイでの雪辱を晴らすために本人もチームも取り組んでいたのですが、とても残念な結果になってしまいました。幸いにも鎖骨骨折なので次回の最終戦までには復活できそうなので、次に期待したいと思います。

一瞬、そんな暗雲が立ち込める中でも山本剛大選手のコンセントレーションは素晴らしく、決勝レース1・レース2共に混戦を征す形で完勝してくれました。特にレース2ではただ勝つだけではなくタイトルを争う選手とのポイント差を広げるためにワザと混戦にさせレースをコントロールする余裕さえ見せてくれ、これには私も驚きました。今シーズンの彼の成長は目覚しくメンタル的にもタイトルを獲得のに相応しい構えになっています。このまま次回の最終戦タイも高い集中力を持続しチーム一丸となって戦い抜きたいと思います。

最後になりましたが、私たちチームにこんな素晴らしいレースの環境を与えてくれたスポンサー様をはじめ関係者様、ファンの皆様に感謝しております。

鶴田 竜二

